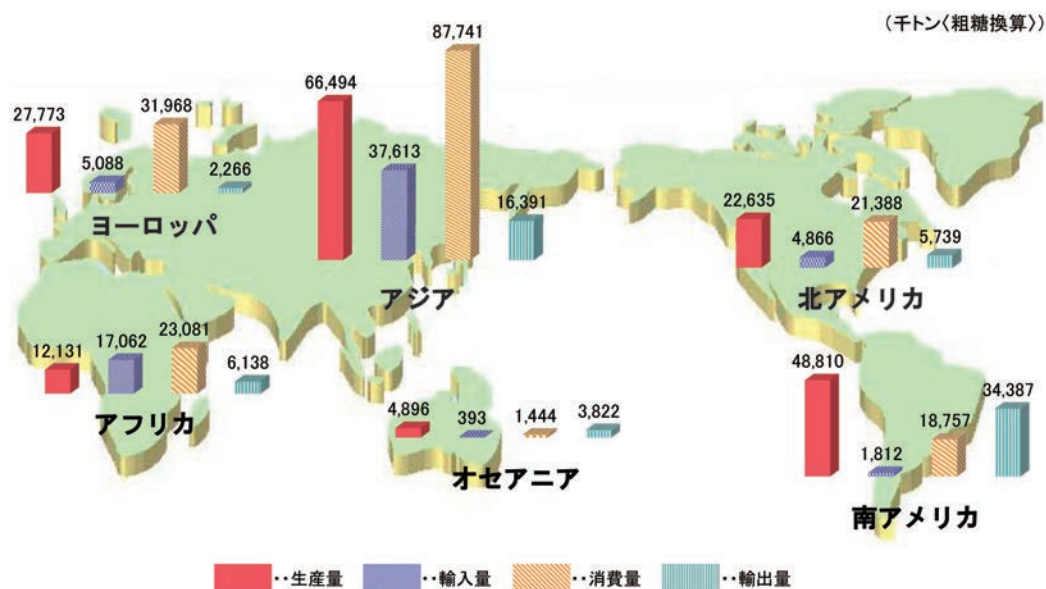


## 砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇、塩原 百合子

### 1. 世界の砂糖需給（2021年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2020/21年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2021年3月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2020/21砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億8274万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、前年度比0.4%増）とわずかに増加すると見込まれる（表1）。アジアでは前年度を上回る一方、ヨーロッパでは主産地であるフランスやロシアでの減産の影響により前年度を下回る見通しである。

EU、インドネシア、米国などでは前年度より需要の落ち込みが見込まれるものの、インド、中国、ブラジル、パキスタンなどでは需要の回復が予測されることを受け、同年度の世界の砂糖消費量は、1億8438万トン（同1.6%増）とわずかな増加が見込まれる。

また2020/21年度の期末在庫率は、前年度比2.7ポイント減の42.9%と見込まれ、砂糖需給は前年度からわずかに引き締まるものの、引き続き40%台の高い水準が維持される見通しである。なお、地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1990/91	31,180	114,134	26,729	106,623	28,254	37,165	34.9
1995/96	44,812	122,392	33,811	116,115	36,615	48,284	41.6
2000/01	64,678	130,768	38,567	131,079	40,945	61,989	47.3
2005/06	57,700	151,186	47,535	150,003	50,013	56,404	37.6
2010/11	50,664	166,769	54,668	165,768	58,206	48,128	29.0
2015/16	73,842	175,955	67,776	178,675	69,077	69,822	39.1
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,628	65,934	180,718	67,687	81,466	45.1
2018/19	81,466	186,584	61,355	183,607	61,827	83,972	45.7
2019/20	83,972	181,926	69,315	181,419	71,216	82,578	45.5
2020/21 (2020年12月予測)	83,524	184,096	65,695	182,990	69,028	81,297	44.4
2020/21 (2021年3月予測)	82,578	182,739	66,833	184,380	68,743	79,028	42.9

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

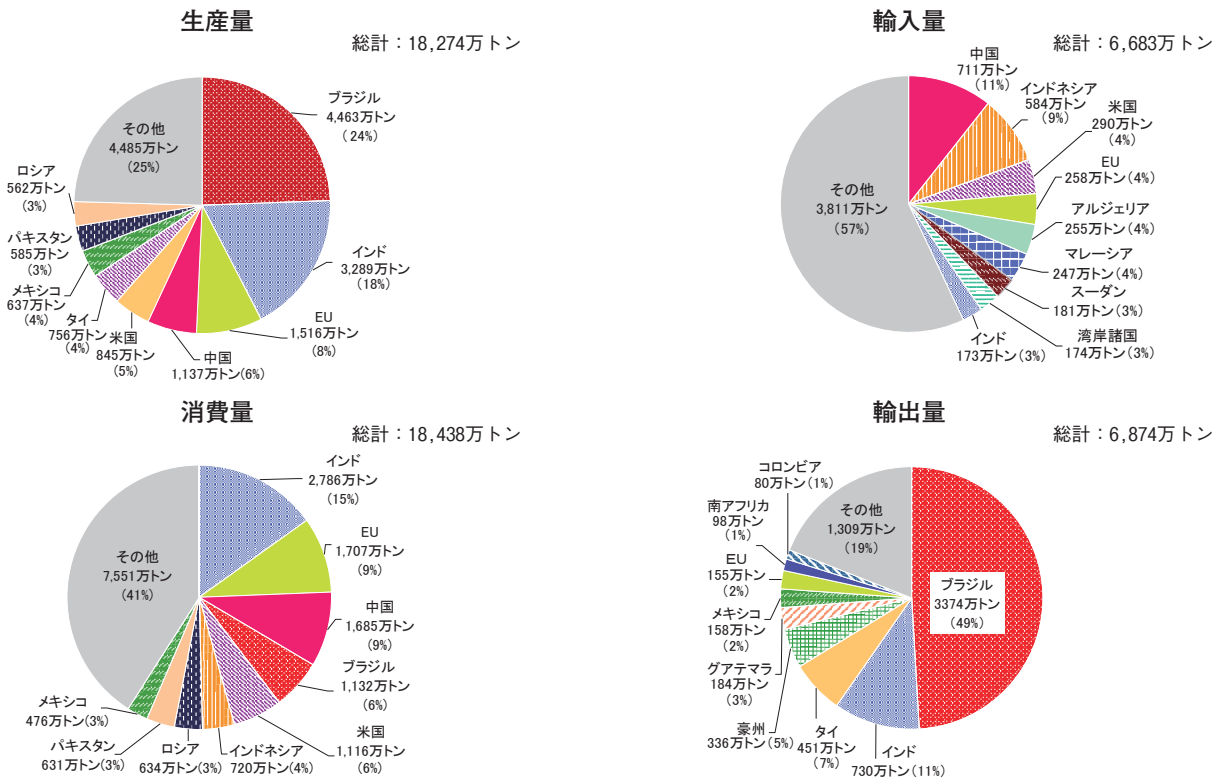
注2：2018/19年度および2019/20年度の数値は推定値、2020/21年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

## 2. 主要国の砂糖需給（2021年3月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2020/21年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2021」

注1：主要国の年度は、各国の砂糖年度。

注2：主要国とその他を表示。

注3：「その他」は、総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

## 【生産量】

生産量第1位のブラジルは、サトウキビの単収が例年より高く、ATR（サトウキビ1トン当たりの回収糖分）が2006/07年度以降最高であることや、製糖業者によるエタノールから砂糖への生産の切り替えの動きを背景に、4463万トン（前年度比40.3%増）と大幅に増加し、世界の砂糖生産量の約4分の1を占めると見込まれる（図2）。

インドは、雨季の降雨に恵まれてサトウキビが順調に生育し、収穫作業も順調に進んでいることから、3289万トン（同11.7%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

EUにおいては、フランスで干ばつの発生と<sup>いおう</sup>萎黄病の流行を背景とした減産が予測されており、EU全体の生産量は1516万トン（同10.6%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

## 【輸入量】

輸入量第1位の中国では、砂糖の国内在庫量を積み増すために、ブラジルなどからの輸入糖の需要が増加すると予測されることから、711万トン（前年度比6.5%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

またインドネシアは、砂糖生産量の不足分を輸入で補う状況にある中、国内生産量の減少見込みから、584万トン（同24.7%増）と大幅に増加すると見込まれる。

## 【消費量】

消費量第1位のインドは、個人消費が堅調に推移していることを踏まえ、2786万トン（前年度比2.8%増）とわずかに増加すると見込まれる。

長らく世界の砂糖需要をけん引してきた中国も、1685万トン（同2.6%増）とわずかに増加すると見込まれる。

インドネシアは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による影響にも関わらず、国内需要が想定を上回って推移したため、前回予測から上方修正されて720万トン（同1.9%減）とわずかに減少すると見込まれる。

## 【輸出量】

輸出量第1位のブラジルは、COVID-19によるエタノール需要の低下やレアル安が砂糖輸出への意欲を刺激することで、3374万トン（前年度比66.0%増）と大幅に増加し、輸出量全体の5割程度を占めると見込まれる。

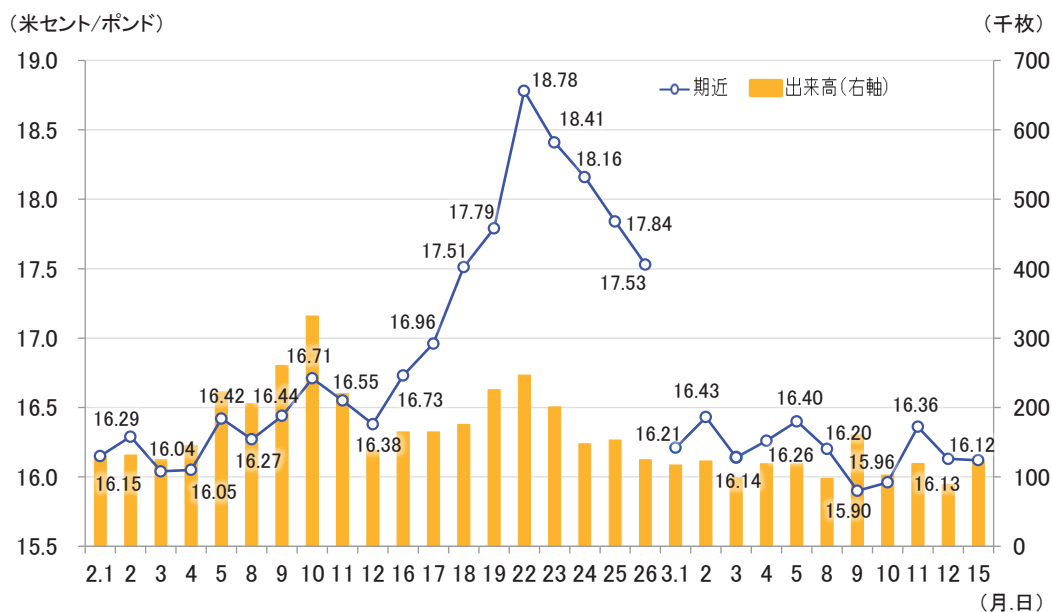
また、長年第2位を占めていたタイは、砂糖生産量の3年連続の減少とそれに伴う国内在庫の減少により、451万トン（同44.8%減）と大幅に減少し、結果、今年度は第3位に後退する見通しである。

一方で、コロナ禍における物流の混乱（コンテナ不足など）の余波を受けて、砂糖の輸出ペースが鈍化しているインドは、730万トン（同11.6%減）とかなり大きく減少するものの、第2位に浮上する見通しである。

### 3. 国際価格の動向

#### ニューヨーク粗糖先物相場の動き（2/1～3/15） ～2月下旬に約4年ぶりの18セント台に乗せる～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）  
注：2月は期近3月限、3月は同5月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2021年2月の推移を見ると（3月限）、1日は、EUの砂糖生産量予測が下方修正されたことなどが影響し、1ポンド当たり16.15セント<sup>（注1）</sup>まで値を上げた。2日は、原油価格が1年ぶりの高値を付けたことで、砂糖相場も追随し、同16.29セントの値を付けたが、3日は、同16.04セントまで値を戻した<sup>（注2）</sup>。4日以降は、原油価格の回復やタイ産砂糖の減産予測などに伴い上昇傾向で推移し、10日は、同16.71セントまで値を上げた。11日は、インド砂糖貿易協会が2020/21年度の国内砂糖生産量が前年度から9%増加するとの見込みを発表し、砂糖需給の緩和が予想されたことで、同16.55セントと下落した。16日以降は、タイ産砂糖生産量の減少やインドからの砂糖輸出の停滞、原油価格の上昇などを背景に相場が上昇し、

22日は同18.78セントとおおよそ4年ぶりに18セント台に乗せた。23日は、原油価格の下落を受けて同18.41セントまで下落した。25日は、2021/22年度の砂糖生産量が消費量を大きく上回るとの予測が市場に広まり、同17.84セントまで値を下げた。26日は、ブラジルリアル相場と原油価格の下落を受けて同17.53セントを付け、3月限は納会した<sup>（注3）</sup>。

期近が5月限に切り替わった3月1日は、同16.21セントを付けた。3日は、インドの2月末時点の砂糖生産量が前年同期から増加したと発表されたことで、同16.14セントまで値を下げた。5日は、原油価格の上昇に伴い同16.40セントまで値を上げた。8日以降は原油価格とリアル相場の下落に引きずられ、9日は同15.90セントとおおよそ1カ月ぶり

に16セントを割り込んだ。12日は、ブラジル中南部地域における2020/21年度2月期までの砂糖生産量が、前年同期から大幅に増加したことを受けて、同16.13セントまで値を下げた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替(補填)燃料であるバイオエタノールの需要も上昇する。バイオエタノールの需要が上昇すると、その原料作物(サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッ

サバなど)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ることが想定される。食品用途仕向けの割合が小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が上昇すると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

## 4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向(2021年3月時点予測)

### ブラジル

#### 2020/21年度(4月~翌3月)の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：865万ha(前年度比0.6%増)

生産量：6億5600万トン(同2.1%増)

##### 【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：4463万トン(同40.3%増)

輸出量：3374万トン(同66.0%増)

### 2020/21年度の砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

2020/21年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、原油の国際価格の動きに不安定さが見られ、バイオエタノール需要にも不透明感があるものの、バイオ燃料など再生可能エネルギーの生産・利用の促進を図るブラジルの国家政策「RenovaBio」の本格始動が生産意欲を後押しする可能性があることも踏まえ、865万ヘクタール(前年度比0.6%増)とわずかに増加すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、生育期間を通じて天候がおおむね良好で生育が順調であることから、6億5600万トン(同2.1%増)とわずかに増加すると見込まれる。一方、砂糖生産量は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるバイオエタノール需要の不透明感を背景に、多くの製糖業者が砂糖生産に回帰す

る動きが見られることから、4463万トン(同40.3%増)と大幅な増産が見込まれる。この予測の下、ブラジルレアルが米ドルに対して安値圏で推移することで輸出意欲が向上し、輸出量は3374万トン(同66.0%増)と大幅に増加すると見込まれる。

### エタノール業界、米国の政権交代によるビジネスチャンスに期待

3月5日付の現地報道は、バイデン新政権による米国の環境問題に対する方針転換により、同国におけるバイオエタノール需要の大幅増が見込まれることで、ブラジルのエタノール業界にとって大きな商機が期待されると報じた。これは、バイデン米大統領が、ドナルド・トランプ前米大統領が策定したエネルギー政策の見直しを公約に掲げるなか、重要課題に位置付ける地球温暖化対策をめぐり、2021年

に気候変動サミットを主催する計画が浮上しているためである。同会議では、新たなCO<sub>2</sub>の削減目標が打ち出されるものと予想されており、これを受け、米国政府によるエタノール混入割合を増やすための投資が行われることが期待されている。

米国はトウモロコシ由来バイオエタノールの世界最大の生産国であり、国内には大量の余剰在庫があ

るものの、ブラジルのエタノール業界は新政権下において混合比が高まることで、米国は需要の一部を国際市場から調達しなければならなくなると考えている。ブラジルは米国に次ぐ世界第2位のバイオエタノール生産国で、この2カ国で、世界の生産量の約8割を占めている。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

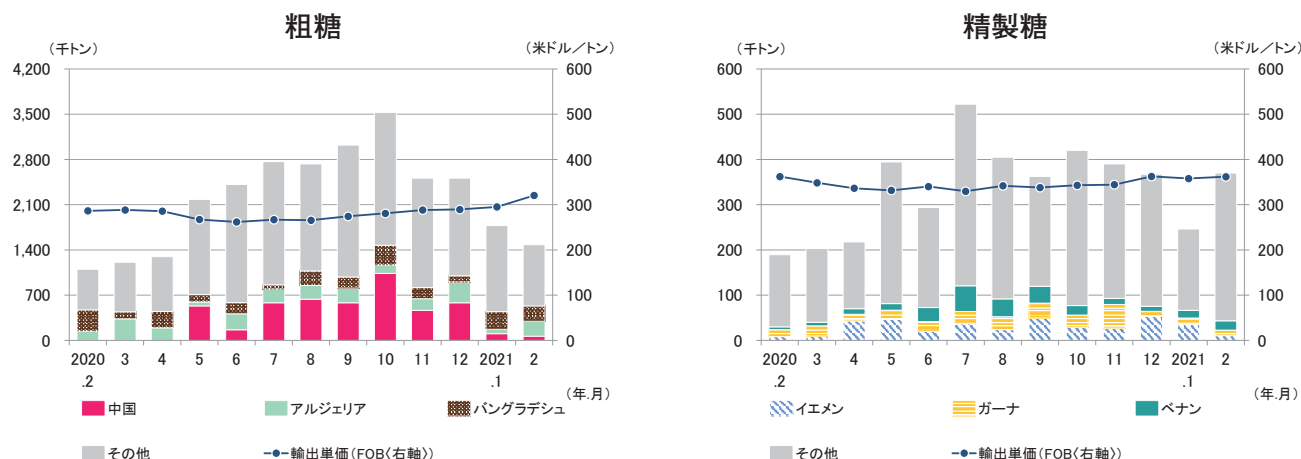
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (2月予測)	2020/21 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,617	8,649	8,599	8,706	8,650	0.6%	
サトウキビ生産量	641,066	620,832	642,677	660,000	656,000	2.1%	
砂糖	生産量	41,517	31,225	31,804	44,852	44,631	40.3%
	輸入量	2	3	2	3	3	28.4%
	消費量	10,852	10,635	10,812	11,321	11,321	4.7%
	輸出量	31,026	21,017	20,321	33,961	33,740	66.0%
	期末在庫量	663	239	912	485	485	▲ 46.8%
	期末在庫率	1.6	0.8	2.9	1.1	1.1	1.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

## インド

### 2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：473万ha（前年度比6.5%増）

生産量：3億9338万トン（同13.6%増）

#### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3289万トン（同11.7%増）

輸出量：730万トン（同11.6%増）

### 2020/21年度の砂糖生産量はかなり大きく増加するものの、輸出量はかなり大きく減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、豪雨による大規模な圃場の浸水被害に見舞われた前年度からの反動で、473万ヘクタール（前年度比6.5%増）とかなりの程度増加すると見込まれる（表3）。サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州では、年間降雨量が集中するモンスーン期（6～9月）における降雨が順調であることから、ダムの水位回復により、サトウキビ生産量は3億9338万トン（同13.6%増）、砂糖生産量も3289万トン（同11.7%増）といずれもかなり大きく増加すると見込まれる。輸出補助金の発表や砂糖の国際価格の堅調な推移などを受けて、製糖業者は砂糖輸出を促進すると見られるものの、コロナ禍における物流の混乱（コンテナ不足など）の影響で砂糖の輸出ペースが鈍化しており、輸出量は730万トン（同11.6%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

### 一酸化炭素排出量削減に向け、自動車燃料としてE20燃料の利用を承認

インド道路交通・高速道路省（MoRTH）は3月8日、E20燃料（エタノール20%とガソリン80%の混合燃料）を、自動車（二輪車および四輪車）用燃料として使用することを承認した。

MoRTHは、今回の承認は、E20燃料の自動車への利用において、一酸化炭素と炭化水素の排出量がガソリン利用に比べて大幅に減少することが確認されたためであるとし、E20燃料の普及により、石油輸入量の削減が進み、外貨節約やエネルギー安全保障の向上などが期待されるとしている。

現在同国では、ガソリンにエタノール10%の混合が認められているが、エタノールの調達ที่ 難しいことから、国内で流通するガソリンにおけるエタノール含有割合は6%未満にとどまっているものと推定され、今後は、同国内におけるE20燃料対応の自動車の開発が加速するとみられている。また、同国政府は、「バイオ燃料に関する国家政策2018」の中で、2030年までにエタノールの混合率を20%にするという目標を掲げているが、今般の動きは、目標達成の前倒しを狙っているのではないかと現地紙は報じている。

表3 インドの砂糖需給の推移

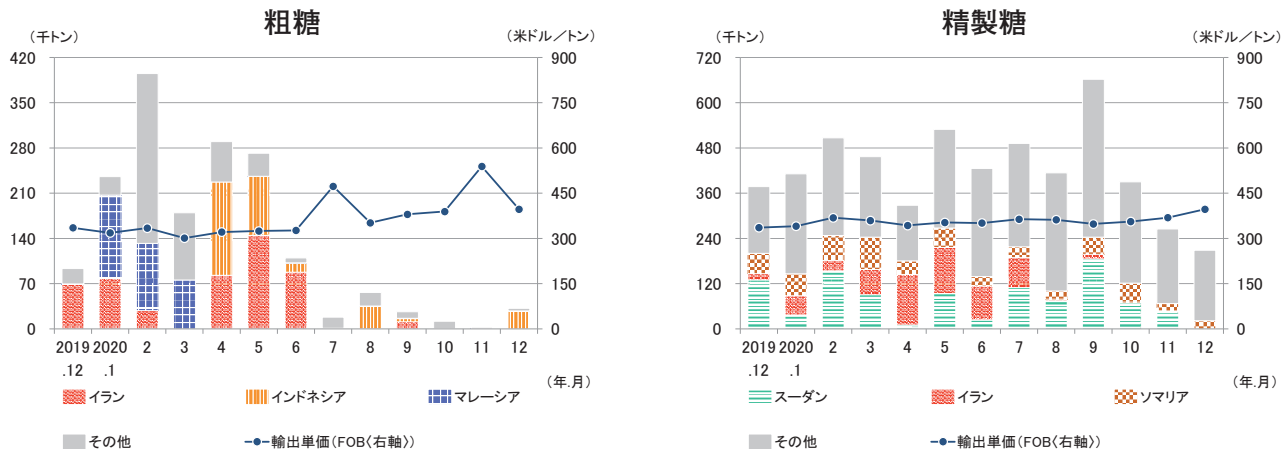
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (2月予測)	2020/21 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,794	4,960	4,441	4,731	4,731	6.5%	
サトウキビ生産量	404,399	404,528	346,431	393,379	393,379	13.6%	
砂糖	生産量	35,043	35,798	29,437	33,426	32,887	11.7%
	輸入量	2,308	664	1,687	2,160	1,728	2.4%
	消費量	27,421	27,540	27,108	27,864	27,864	2.8%
	輸出量	2,360	5,483	8,254	8,100	7,296	▲ 11.6%
	期末在庫量	11,523	14,962	10,724	10,346	10,179	▲ 5.1%
	期末在庫率	38.7	45.3	30.3	28.8	29.0	1.4ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

## 中国

### 2020/21年度(10月～翌9月)の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：116万ha(前年度比1.6%減)

生産量：7360万トン(同3.5%減)

#### 【てん菜】

収穫面積：23万ha(同8.8%増)

生産量：1238万トン(同13.6%増)

#### 【砂糖(甘しや糖およびてん菜糖)】

生産量：1137万トン(同1.0%増)

輸入量：711万トン(同6.5%増)

### 2020/21年度の輸入量は、かなりの程度増加する見込み

2020/21年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、雲南省では面積の増加が見られるものの、広西チワン族自治区と広東省での面積減少を受

けて、116万ヘクタール(前年度比1.6%減)とわずかに減少すると見込まれ、サトウキビ生産量も、7360万トン(同3.5%減)とやや減少すると見込まれる(表4)。また、同年度のてん菜の収穫面積は、内モンゴル自治区において、てん菜の買い取り価格



が引き上げられたことから、生産者は作付面積を拡大し、収穫面積は23万ヘクタール（同8.8%増）とかなりの程度増加すると見込まれ、てん菜生産量も、単収の増加に伴い、1238万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、1137万トン（同1.0%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸入量は、2月中旬から始まる旧正月が明けるまでは沈静化するとみられるものの、ブラジル産砂糖の輸入量が2020年末にかけて急増したことなどから、711万トン（同6.5%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

### 内モンゴル自治区のてん菜糖生産量、過去11年間で最多を記録

3月3日付の現地報道は、中国の主要なてん菜糖生産地である内モンゴル自治区では、2月末時点で自治区内の13製糖工場のすべてが操業を終了し、2020/21年度のてん菜処理量は695万トンとなっ

たと報じた。また、てん菜糖生産量は89万1000トン（前年度比22.9%増）と過去11年間で最多を記録し、てん菜糖生産で近年首位を争う新疆ウイグル自治区の生産量を上回った前々年度および前年度に引き続き、3年連続で同国最大のてん菜糖生産地となった。2月末現在のてん菜糖出荷量は57万3000トン、在庫量は31万8000トンと前年同期より9万8000トン（前年同期比44.5%増）増加した。

一方、同国最大の甘しや糖生産地である広西チワン族自治区では、2月末時点で同自治区内の24の製糖工場が操業中であるが<sup>(注)</sup>、2月末までに4418万トンのサトウキビが圧搾され、甘しや糖生産量は555万8800トン（同3.2%減）とやや減少し、シヨ糖の平均回収率も12.58%と前年度の13.01%から0.43ポイント低下した。

(注) LMC Internationalによると、2019/20年度における広西チワン族自治区内の製糖工場数は91。

表4 中国の砂糖需給の推移

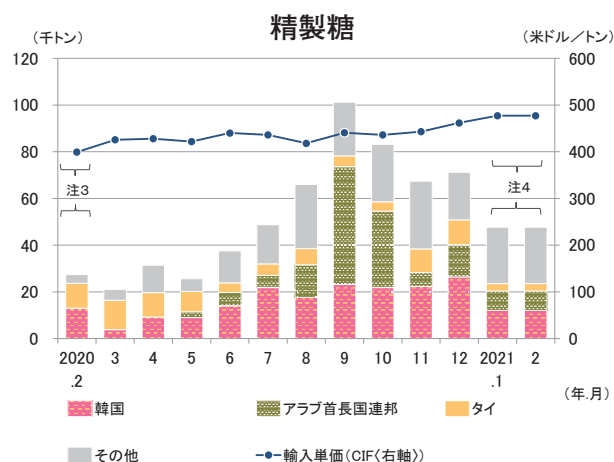
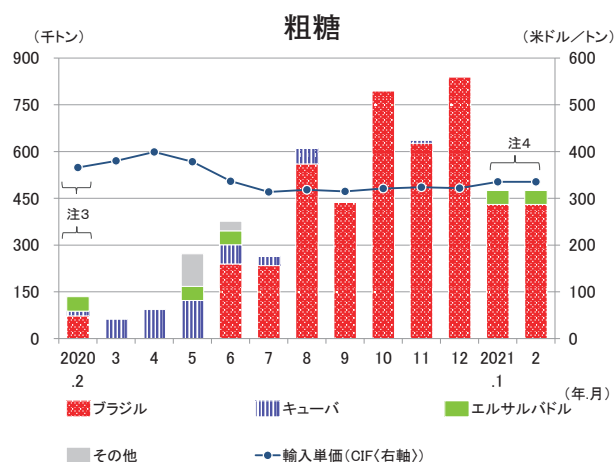
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (2月予測)	2020/21 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,231	1,219	1,176	1,157	1,157	▲ 1.6%	
サトウキビ生産量	76,780	78,590	76,231	73,600	73,600	▲ 3.5%	
てん菜収穫面積	186	243	213	231	231	8.8%	
てん菜生産量	9,590	11,670	10,900	12,380	12,380	13.6%	
砂糖	生産量	11,147	11,640	11,258	11,354	11,367	1.0%
	輸入量	6,033	5,053	6,675	6,957	7,108	6.5%
	消費量	16,414	16,522	16,414	16,631	16,849	2.6%
	輸出量	182	210	192	201	201	4.9%
	期末在庫量	11,273	11,233	12,561	14,148	13,986	11.3%
	期末在庫率	67.9	67.1	75.6	84.1	82.0	6.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

注3：2020年2月の数値は、中国海関総署（日本の税関に相当する組織）が公表した1～2月の合計値を等分した。

注4：2021年1、2月の数値は、中国海関総署が公表した1～2月の合計値を等分した。

E U

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：147万ha（前年度比2.9%減）

生産量：9916万トン（同9.9%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1516万トン（同10.6%減）

輸出量：155万トン（同8.0%増）

2020/21年度の輸出量は、かなりの程度増加する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は147万ヘクタール（前年度比2.9%減）とわずかに減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、EUの主要てん菜生産国であるフランスで感染が広がる萎黄病の被害を受けて、前月予測から下方修正され、9916万トン（同9.9%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。てん菜生産量の落ち込みを受け、砂糖生産量は1516万トン（同10.6%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量については、砂糖の国際価格の上昇によって2020年10月～翌1月の輸出ペースが加速したことを受けて、前月予測から上方修正され155万トン（同8.0%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

砂糖業界団体、メルコスールとのFTAに引き続き反対すると表明

欧州てん菜生産者連盟（CIBE）、欧州砂糖製造者協会（CEFS）および欧州食品・農業・旅行労働組合連合（EFFAT）は2月24日、EUの貿易協定に関する共同声明において、EUとメルコスール（アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ）間の自由貿易協定（FTA）への反対姿勢を改めて示した。同FTAは2019年6月、政治合意に達したものの、批准には至っていない。

上記3団体は欧州委員会の共同研究センター（JRC）が2021年1月に公表した、「通商協定がEUの農業へ累積的に及ぼす経済的影響」の調査結果について、砂糖は既存の通商協定において悪影響を受けている数少ない品目の一つであると考察されたことを指摘し、この傾向を変えるためには、①公平な

競争条件に基づく貿易の実施、②自然環境や労働環境などの観点で持続可能な貿易の実施、③他国の不当な政策に対する反対意思の主張—の3点について取り組む必要があると主張した。3団体は、メルコスールとのFTAはこれら3点の必要不可欠な事項を満たしていないと述べ、同協定に引き続き反対する姿勢を示した<sup>(注)</sup>。

(注) 3団体は、2019年7月にも、メルコスール通商協定に反対する声明を発表している。詳細は、『砂糖類・でん粉情報』2019年8月号「砂糖の国際需給 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年7月時点予測）」のEUの項 ([https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002012.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002012.html)) を参照されたい。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

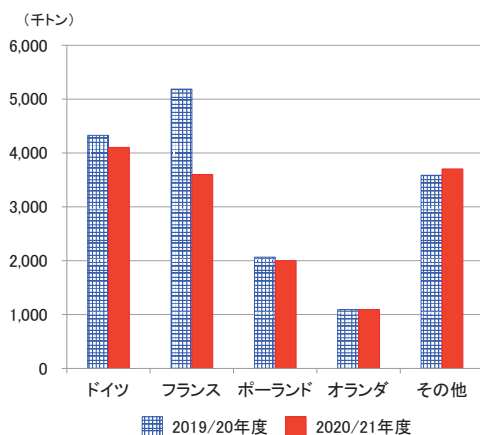
年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (2月予測)	2020/21 (3月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,624	1,599	1,517	1,474	1,474	▲ 2.9%
てん菜生産量	130,930	104,224	110,038	99,405	99,160	▲ 9.9%
砂糖	生産量	20,353	17,083	16,954	15,199	▲ 10.6%
	輸入量	1,566	2,349	2,230	2,577	15.6%
	消費量	17,478	17,546	17,111	17,074	▲ 0.2%
	輸出量	4,270	2,391	1,436	1,341	8.0%
	期末在庫量	2,080	1,576	2,213	627	▲ 40.3%
	期末在庫率	9.6	7.9	11.9	3.4	7.1

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2021年2月時点)

EUの砂糖生産見通し

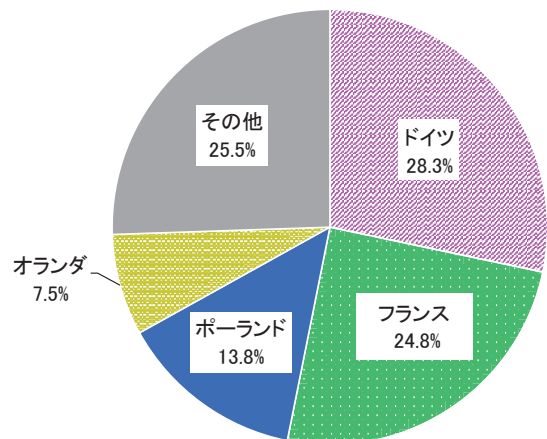


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2020/21年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会

注：2020/21年度の予測値に基づく割合。

## 5. 日本の主要輸入先国の動向（2021年3月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2020年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比5.2ポイント増）、タイが10.5%（同8.1ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

本稿中の為替レートは2021年2月末日TTS相場の値であり、1豪ドル=85円（85.31円）である。

### 豪州

#### 2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.0%減）

生産量：3112万トン（同3.6%増）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：438万トン（同2.1%増）

輸出量：336万トン（同2.5%減）

#### 2020/21年度の砂糖生産量は、わずかに増加する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、記録的な干ばつに見舞われた2019年ほど極端な天候にはならないとの前提の下、3112万トン（同3.6%増）とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前年度の減産からの反動が押し上げ要因となり、サトウキビ生産量の増加も受けて、438万トン（同2.1%増）とわずかに増加すると見込まれる。一方で、前年度の減産により期末在庫量（当期期首在庫量）が減少したことを受け、今年度の増産が輸出量の落ち込みをある程度補完すると想定されるものの、輸出量は336万トン（同2.5%減）と、依然減少傾向が続くと見込まれている。

#### 連邦政府およびクイーンズランド州政府、物流インフラ整備の資金を助成

クイーンズランド（QLD）州政府は、州内のサトウキビ産地であるメリーボロー地区において、製糖工場への鉄道輸送の支援に向け、貨車積載に用いる機材（トランスローダー）の整備資金として、190万豪ドル（1億6150万円）の公的資金を導入すると現地報道が伝えた。これは、豪州連邦政府による250万豪ドル（2億1250万円）の支援に続くものである。

同地区においては、2020年の製糖シーズン終了後の製糖工場の閉鎖が発表されたことを受け、地域の生産者が対策として、収穫量38万トンのサトウキビを新たに遠方の製糖工場へ鉄道輸送する計画を策定し、政府に支援を要請していた。

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）の最高責任者によると、本計画の実現にはトランスローダーが不可欠であるとして、両政府の対応を称賛した。今回の助成により、サトウキビの生産や運搬などに関わる110人の現地雇用が確保されるとともに、新たな納入先となる製糖工場においても、681人の雇用を支えることになるということである。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (2月予測)	2020/21 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	376	379	364	361	361	▲ 1.0%	
サトウキビ生産量	33,344	32,493	30,044	31,123	31,123	3.6%	
砂糖	生産量	4,463	4,717	4,293	4,384	2.1%	
	輸入量	27	18	16	20	22.1%	
	消費量	1,026	1,057	1,052	1,036	▲ 1.6%	
	輸出量	3,590	3,562	3,449	3,364	▲ 2.5%	
	期末在庫量	842	958	767	784	771	0.5%
	期末在庫率	18.2	20.7	17.0	17.8	17.5	0.5ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：139万ha（前年度比18.8%減）

生産量：6500万トン（同13.2%減）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：756万トン（同14.1%減）

輸出量：451万トン（同44.8%減）

### 2020/21年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前期作でのキャッサバなどの代替作物の収益性が高かったことから、今期作では代替作物がより多く作付けされたことにより、139万ヘクタール（前年度比18.8%減<sup>(注)</sup>）と大幅に減少すると見込まれる（表7）。加えて今期のサトウキビ生産量は、前期に続き干ばつの影響を受け、6500万トン（同13.2%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビ生産の落ち込みにより、756万トン（同14.1%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖の減産や在庫量の減少に伴い輸出余力が低下し、輸出量は451万トン（同44.8%減）と大幅に減少すると見込まれる。

(注) 当月予測において、2019/20年度の面積値に変更が生じたため、前月予測と数値が相違している。

### OCSB、PM2.5削減に向け、地場セメント企業と共同でトラッシュの有効利用を開始

タイの大手企業サイアムセメントグループ（SCG）でセメント・建設製品事業を担うザ・コンクリートプロダクツ・アンド・アグリゲート社（CPAC）は2月19日、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）<sup>(注)</sup>と共同で、サトウキビの焼き畑収穫に起因する大気汚染の軽減を目指し、トラッシュ（サトウキビの葉や梢頭部<sup>しょうとうぶ</sup>など）の有効利用プロジェクトを始動することを明らかにした。

具体的には、OCSBがサトウキビ農家や製糖工場と調整を行うなどしてトラッシュの回収を支援し、CPACが農家などから買い取ったトラッシュをセメント生産や他の事業における代替燃料として利用するもので、同プロジェクトを通じて、焼き畑によるPM2.5の削減のほか、サトウキビ農家の所得向上などが期待されるとみられている。

同社によると、事業期間は2021年2月19日か

ら2023年3月31日の約2年間を予定し、年間約21万トンのトラッシュの回収を見込んでいる。

(注) サトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である政府3省（工業省〈製糖関係〉、農業協同組合省〈原料作物関係〉、商務省〈砂糖の売買関係〉）とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された、サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）の事務局。

表7 タイの砂糖需給の推移

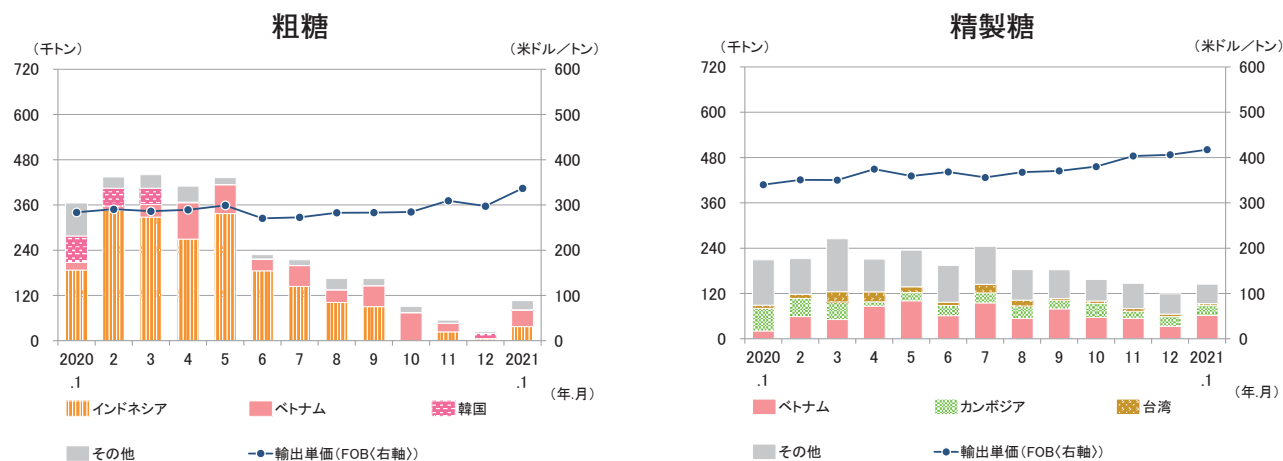
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (2月予測)	2020/21 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,790	1,913	1,714	1,392	1,392	▲18.8%	
サトウキビ生産量	134,929	130,970	74,893	63,000	65,000	▲13.2%	
砂糖	生産量	15,586	15,457	8,807	7,411	7,562	▲14.1%
	輸入量	5	4	59	23	23	▲61.1%
	消費量	3,434	3,737	3,773	3,646	3,700	▲1.9%
	輸出量	9,820	10,113	8,162	4,407	4,505	▲44.8%
	期末在庫量	6,289	7,899	4,830	4,211	4,211	▲12.8%
	期末在庫率	47.4	57.0	40.5	52.3	51.3	10.8ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。